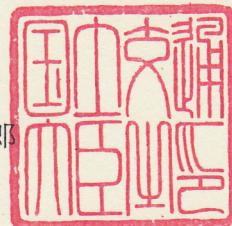


認定書

国住指第2690号
平成24年12月3日

因幡電機産業株式会社
代表取締役 守谷 承弘 様

国土交通大臣 羽田 雄一郎



下記の構造方法等については、建築基準法第68条の26第1項（同法第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第129条の2の5第1項第七号ハ（防火区画貫通部1時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PS060WL-0639

2. 認定をした構造方法等の名称

ケーブル・合成樹脂製可とう電線管／耐熱シール材／シリコーン系シーリング
材充てん／壁耐火構造／貫通部分

3. 認定をした構造方法等の内容

別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 構造名

ケーブル・合成樹脂製可とう電線管／耐熱シール材／シリコーン系シーリング材充てん／壁耐火構造／貫通部分

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項目	申請構造	
開口部	鋼製 ボックス側	形状：矩形 面積：0.024m ² 以下(240×100以下)
	ケーブル側	形状：円形 面積：0.0017m ² 以下(Φ47以下)
占積率 (鋼製ボックス側 開口に対するケーブ ル断面積の総合計 の割合)	合成樹脂製可とう電線管なし : 34.9%以下(鋼製ボックスが1～5個用の場合) 合成樹脂製可とう電線管なし : 32.2%以下(鋼製ボックスが1、2個用の場合)	
占積率 (ケーブル側開口 に対する合成樹脂 製可とう電線管断 面積の総合計の割 合)	60.3%以下(鋼製ボックスが1～5個用の場合) 45.8%以下(鋼製ボックスが1、2個用の場合)	
占積率 (ケーブル側合成 樹脂製可とう電線 管に対するケーブル 断面積の総合計の 割合)	52.9%以下(鋼製ボックスが1～5個用の場合) 59.8%以下(鋼製ボックスが1、2個用の場合)	
貫通する壁 の構造等	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)建築基準法第2条第七号の規定に基づき、国土交通大臣が指定もしくは認定し た耐火構造(60分)の壁(ただし、木製下地及び有機系断熱材を壁内に充てんし ている構造は除く) ・壁厚 115以上(鋼製ボックスが1～5個用の場合) 100以上(鋼製ボックスが1、2個用の場合) (2)建築基準法施行令第115条の2の2第1項第一号の規定に基づく準耐火構造(60 分)の壁(ただし、両面強化せっこうボード厚さ12.5以上重張に限る。かつ木 製下地及び有機系断熱材を壁内に充てんしている構造は除く) ・壁厚 115以上(鋼製ボックスが1～5個用の場合) 100以上(鋼製ボックスが1、2個用の場合) (3)コンクリート ・壁厚 115以上(鋼製ボックスが1～5個用の場合) 100以上(鋼製ボックスが1、2個用の場合)	

(別添-1)

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位:mm)

項目	申請構造
電線管付ケーブル 合成樹脂製可とう電線管	<p>(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)あり 合成樹脂製可とう電線管 ・規格 JIS C 8411 ・呼び径 28 以下 ・外径 $36.5_{+0.50}$ 以下 ・厚さ $2.00_{+0.40}$ 以下 ・本数 4 以下 ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ポリエチレン 2)架橋ポリエチレン</p> <p>(2)壁内のみあり 合成樹脂製可とう電線管 ・規格 JIS C 8411 ・呼び径 28 以下 ・外径 $36.5_{+0.50}$ 以下 ・厚さ $2.00_{+0.40}$ 以下 ・本数 4 以下 ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ポリエチレン 2)架橋ポリエチレン</p> <p>(3)なし(RC除く)</p>

(寸法単位:mm)

項目	申請構造
電線管付ケーブル	<p>[1] 総発熱量 37,857kJ/m以下(鋼製ボックスが1~5個用の場合) 12,005kJ/m以下(鋼製ボックスが1、2個用の場合)</p> <p>[2] 総導体断面積 0.0001m²以下</p> <p>[3] ケーブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外 径 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) 円形 11.0以下(仕上り外径) 2) 平形 断面積 95mm²以下 ・導体断面積 22mm²以下(1本あたり) ・導体種類 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) 銅 2) ガラス繊維(光ファイバケーブル) ・絶縁体 1)~3)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) ポリエチレン系樹脂 2) 塩化ビニル系樹脂 3) ゴム系樹脂 ・シース 1)~3)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) ポリエチレン系樹脂 2) 塩化ビニル系樹脂 3) ゴム系樹脂 ・介在物 1)~4)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) 紙 2) ジュート 3) ポリプロピレン 4) なし ・本数 総発熱量を各ケーブルの発熱量で除した数以下且つ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下 ・規格 次の規格のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> JIS C 3307, 3312, 3317, 3342, 3401, 3501, 3502, 3605, 3606, 3605 準拠, 3612, 6850 JCS 第224号, 第271号A, 第364号A, 第376号A, 第381号, 第396号, 第396号A, 第402号, 第416号, 第418号B, 第419号A, 第420号, 第421号, 第422号, 第423号, 第426号, 第427号, 第4426号, 第4427号, 第4396号, 第5420号, 第5421号, 第5422号, 第5423号, 第4419号準拠, 第4364号準拠, 第5381号準拠 JCS C 第68号, 第70号, 第71号, 第72号, 第74号, 第75号, 第76号, 第9074号, 第9075号, 第9076号, 第3271号準拠, 第9072号準拠 TIA/EIA 568A, TIA/EIA 568A 準拠, TIA/EIA 568B 平成9年消防庁告示第10号, 第11号

項目	申請構造
防火措置材 充てん材	<p>[1] 耐熱シール材(鋼製ボックス側開口)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密度 1.3g/cm³以上 ・充てん量 高さ 20 以上 <p>[2] 充てん材(合成樹脂可とう電線管と壁材との間)</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 <ul style="list-style-type: none"> 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) 建築用シーリング材(JIS A 5758) <ul style="list-style-type: none"> 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) シリコーン系シーリング材 2) 変成シリコーン系シーリング材 2) モルタル(中空壁を除く) <ul style="list-style-type: none"> 調合 ポルトランドセメント: 細骨材(砂、珪砂等) = 1:3(構成比) <p>・充てん厚 25 ± 3 以上</p> <p>(2) なし(RCのみ)</p> <p>[3] 化粧シート(ケーブル側開口塞ぎ用)</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) あり</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) アクリル系粘着剤付シート <ul style="list-style-type: none"> ・基材(シート) <ul style="list-style-type: none"> 1)～2)のうち、いずれか一仕様とする 1) ポリオレフィン系不織布 2) ポリオレフィン系樹脂 3) ポリアミド系樹脂 4) ポリ塩化ビニル系樹脂 2) アルミガラスクロステープ <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ(シート) 0.55 以下 ・材質(粘着剤) アクリル系 ・厚さ(粘着剤) 0.5 以下 ・使用寸法 87×87 以下 <p>(2) なし</p>

2) 副構成材料

(寸法単位: mm)

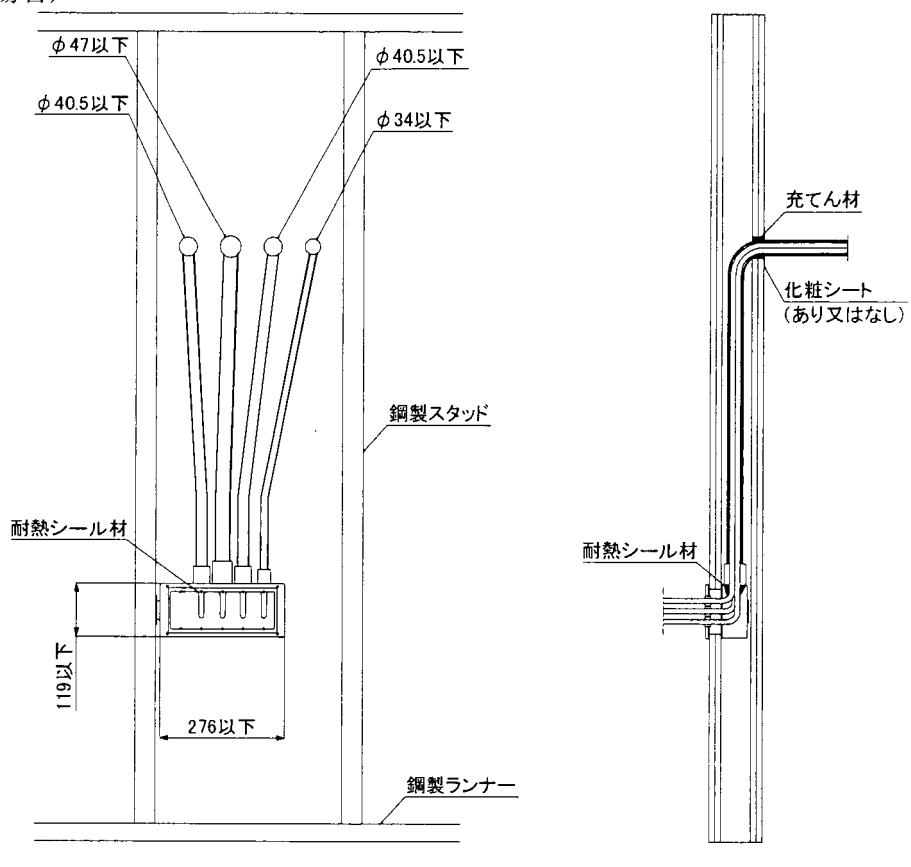
項目	申請構造
防火措置材	<p>[1] 鋼製ボックス（アウトレットボックス）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 ・寸法 276×119×54 (1~5個用) 以下 102×102×35 (1、2個用) 以下 ・厚さ 1.6 以上 ・半抜き穴 ϕ34 以下 (1~5個用, 14個以下) ϕ21.8 以下 (1、2個用, 7個以下) <p>[2] 塗代カバー</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)あり (鋼製ボックスが1~5個用の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 ・寸法 276×119 以下 ・厚さ 1.6 以上 <p>(2)なし (鋼製ボックスが1、2個用の場合)</p> <p>[3] 端部付属品</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)あり (電線管ありの場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 ABS系樹脂 ・呼び径 28 (1~5個用) 以下 16 (1、2個用) 以下 ・規格 JIS C 8412 <p>(2)なし (電線管なしの場合)</p> <p>[4] ボックス固定金具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 溶融亜鉛めつき鋼板 ・規格 JIS G 3302 ・厚さ 0.8 以上 <p>[5] ケーブル支持材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 ABS系樹脂 ・寸法 44×23 以下 ・個数 15 (1~5個用) 以下 6 (1、2個用) 以下 <p>(但し、[6]のケーブル支持材取付枠1個当たり3個以下)</p> <p>[6] ケーブル支持材取付枠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 溶融亜鉛めつき鋼板 ・規格 JIS G 3302 ・厚さ 1.4 以上 ・個数 5 (1~5個用) 以下 2 (1、2個用) 以下

(寸法単位:mm)

項 目	申 請 構 造
防火措置材	<p>[7] 開口塞ぎカバー</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) ABS系樹脂</p> <ul style="list-style-type: none">・寸法 254×120(1~5個用)以下 116×120(1、2個用)以下・厚さ 2.0以下 <p>(2) ステンレス</p> <ul style="list-style-type: none">・寸法 254×120(1~5個用)以下 116×120(1、2個用)以下・厚さ 2.0以下

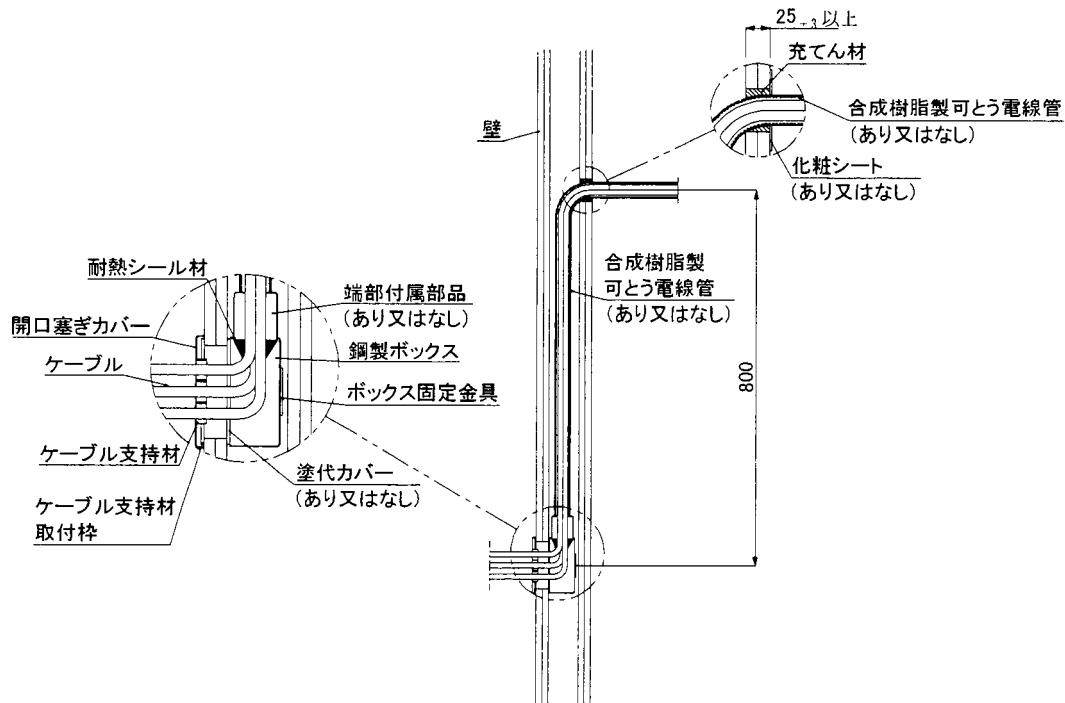
(寸法単位: mm)

4. 構造説明図 (中空壁の場合)



正面図(壁内部)

断面図



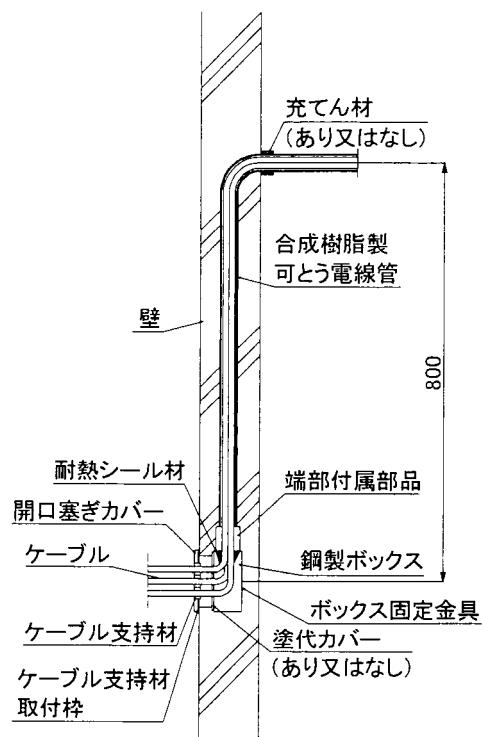
断面詳細図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

(別添-7)

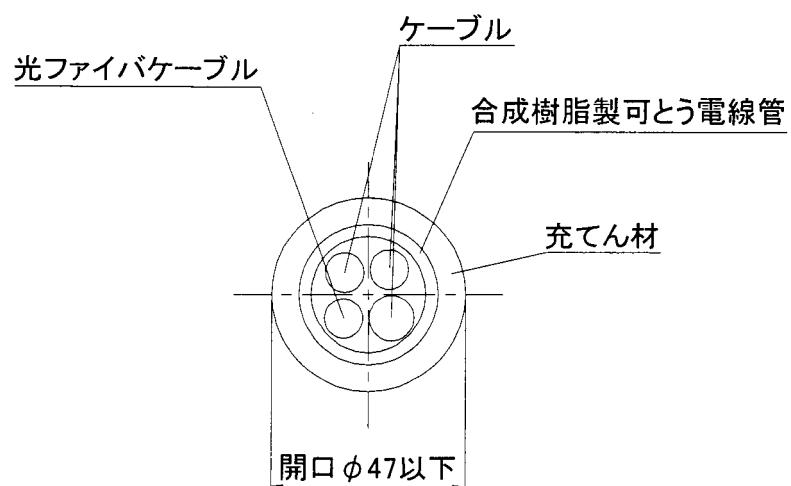
(寸法単位: mm)

(コンクリート壁の場合)



断面詳細図

配管通部詳細



注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

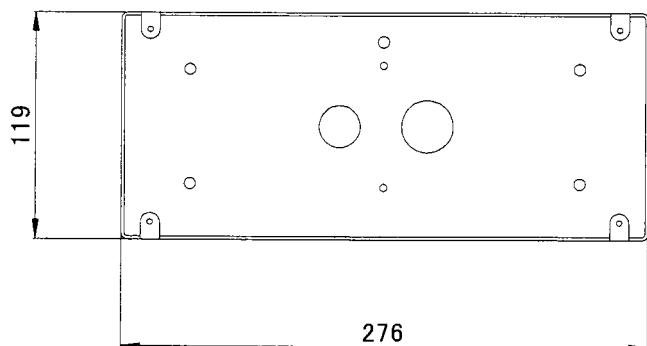
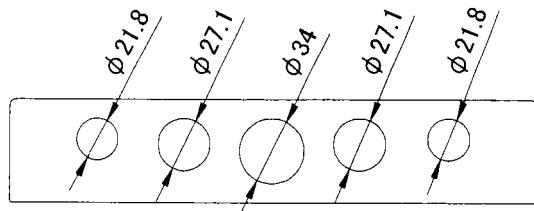
(別添-8)

正面図及び側面図例

(寸法単位 : mm)

1. 鋼製ボックス (アウトレットボックス)
(1~5 個用)

(例 : 5 個用)

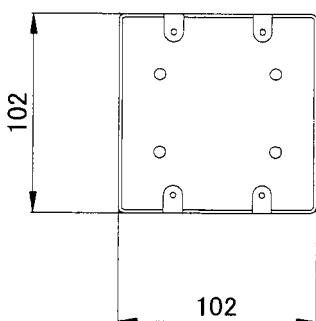
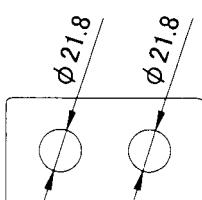


正面図

側面図

(1, 2 個用)

(例 : 2 個用)



正面図

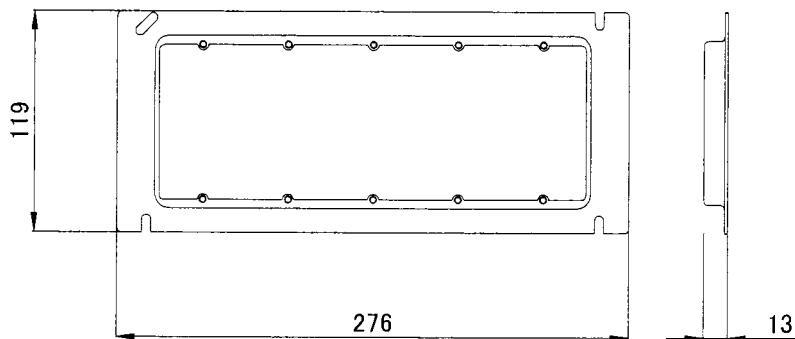
側面図

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

(別添 - 9)

(寸法単位 : mm)

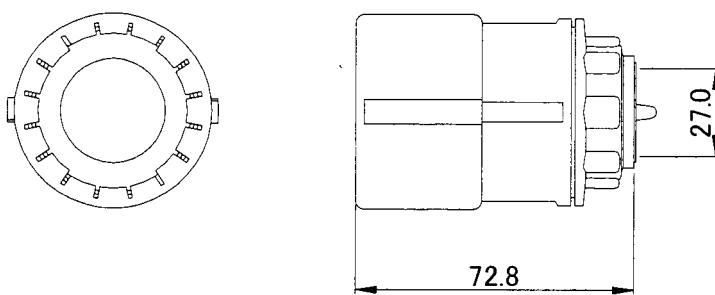
2. 塗代カバー



正面図

側面図

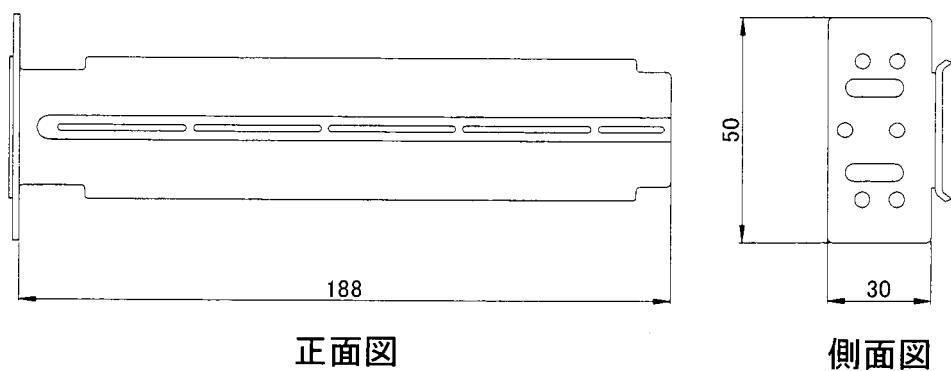
3. 端部付属品



正面図

側面図

4. ボックス固定金具



正面図

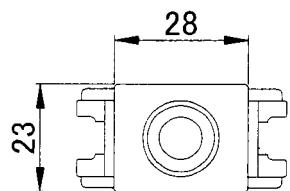
側面図

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

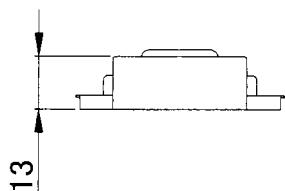
(別添-10)

(寸法単位 : mm)

5. ケーブル支持材

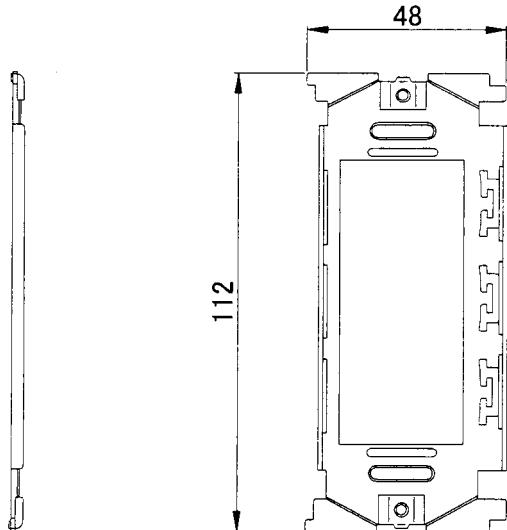


正面図



側面図

6. ケーブル支持材取付枠



側面図

正面図

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

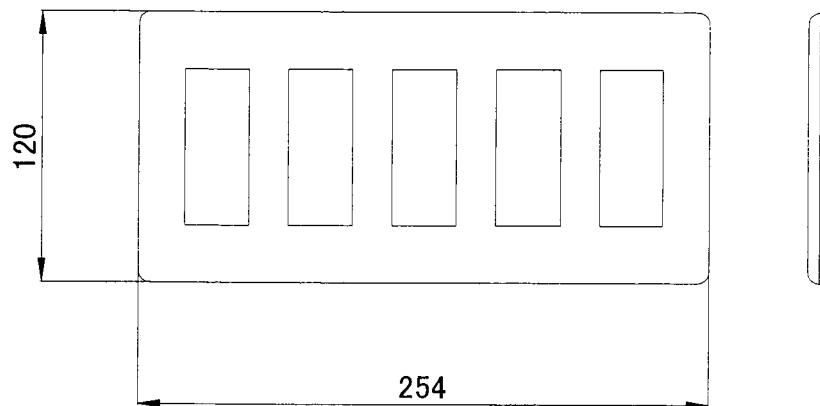
(別添-11)

(寸法単位:mm)

7. 開口塞ぎカバー

(1~5個用)

(例: 5個用)

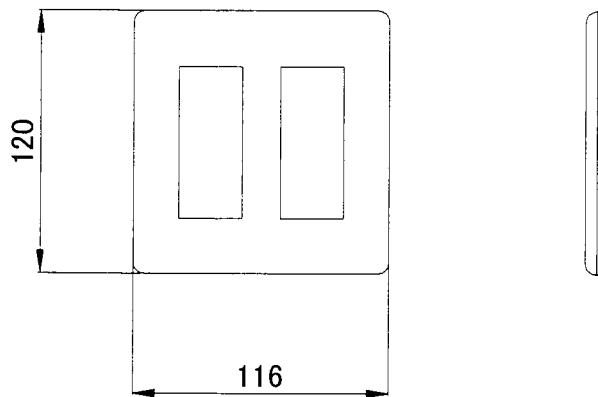


正面図

側面図

(1, 2個用)

(例: 2個用)



正面図

側面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

(別添-12)

5. 施工方法等

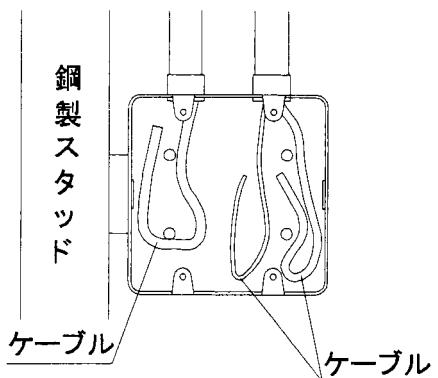
〈施工図〉

4. 構造説明図と同じ

〈施工手順〉(中空壁の場合)

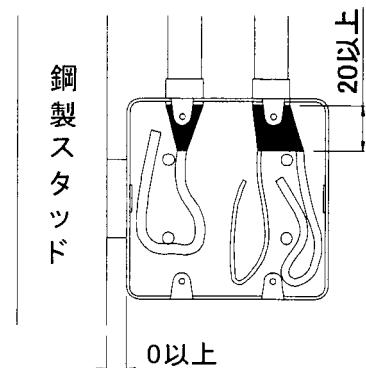
(1) 鋼製ボックスの設置

- ①必ず、鋼製ボックスを用意する。
- ②鋼製ボックスに端部付属品を設置し、配管する。



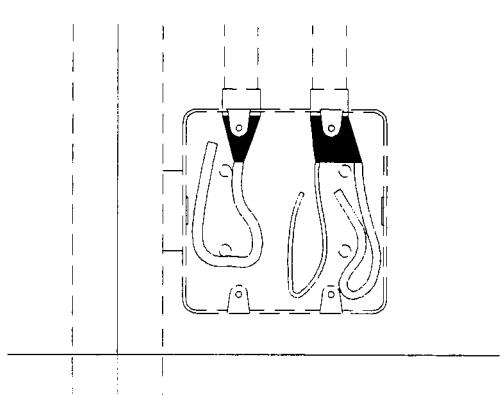
(2) ケーブルの挿入

- ①鋼製ボックス内に引き込むケーブルを全て引き込みます。
右図は一例。



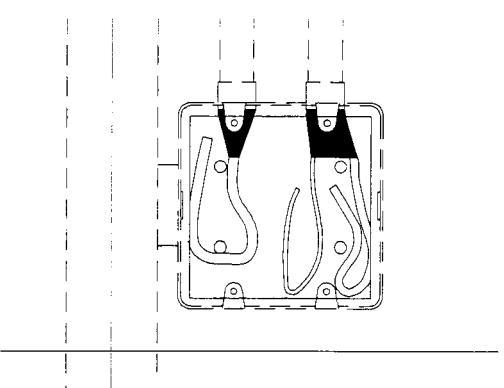
(3) 耐熱シール材の盛り上げ

- ①配線した周囲に耐熱シール材を端部付属品から円錐状に
20mm 以上盛り上げる。



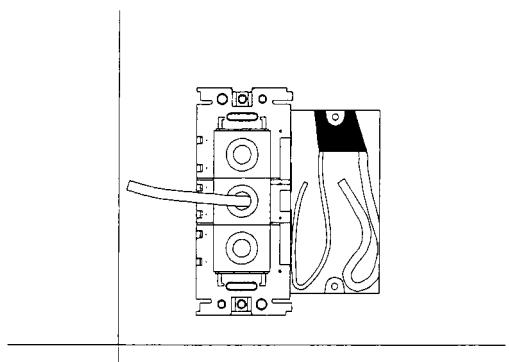
(4) ボードの穴あけ

- ①ボードにケーブル支持材などを取付ける穴を開ける。

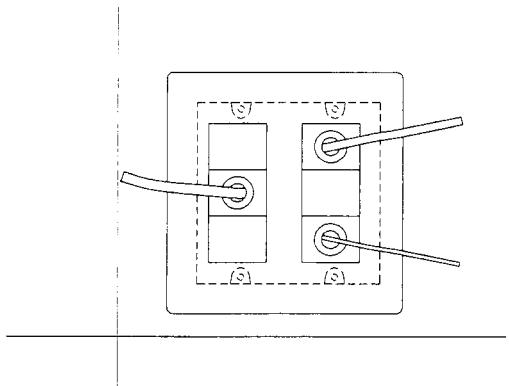


(5) 副鋼製材料の設置

- ①ケーブル支持材、ケーブル支持材取付枠などを取り付ける。



- ②開口塞ぎカバーを付ける。



(6) 建築用シーリング材の充てん

- ①あらかじめ合成樹脂製可とう電線管貫通部に適合する穴を開け、ボードを貼り付ける。

- ②合成樹脂製可とう電線管と開口の隙間に建築用シーリング材を充てんする。

- ③合成樹脂製可とう電線管の建築用シーリング充てん埋戻し部について化粧が必要な場合、合成樹脂製可とう電線管の埋め戻し部を覆うように 87×87 以下のアクリル系粘着付シート等を張りつける。

